

メバチ 大西洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

漁獲の動向

総漁獲量は 1994 年に過去最高の 13 万トンに達したが、その後徐々に減少して、2005 年以降は 7 万～8 万トンで推移し、2016 年の総漁獲量は TAC 減の関係もあり 7.2 万トン（予備集計）で前年から減少した。2016 年現在、はえ縄の漁獲は全体の約半分（49%）であり、まき網の漁獲（39%）が近年増加傾向にある。メバチの平均体重は、はえ縄で 45～60 kg、竿釣りで 20～30 kg、まき網で 3～4 kg である。

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長約 2.0 m・約 200 kg
- 寿命：10～15 歳
- 成熟開始年齢：3 歳（120 cm で大部分が成熟）
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24°C 以上の海域
- 索餌期・索餌場：特定の海域・時期の報告はない
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類、他のまぐろ類よりハダカイワシ・ムネエソ等の中深層性魚類が多い
- 捕食者：大型のまぐろ・かじき類、さめ類、鯨類

資源状態

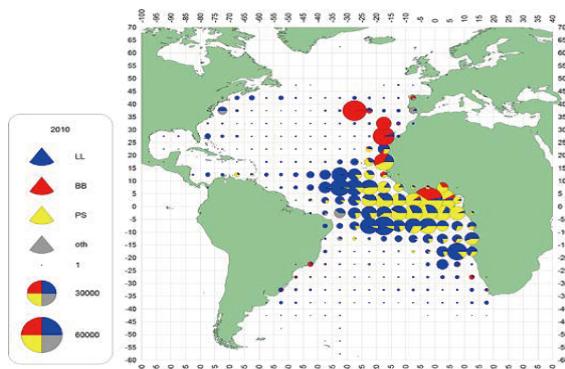
ICCAT の科学委員会は、2015 年に資源評価を実施し、ASPIC と SS3 による結果を等しい重み付けで統合したものを管理勧告に用いた。結果として、MSY：6.8 万～8.5 万トン（中央値 7.9 万トン）、 F/F_{MSY} ：0.62～1.85（中央値 1.28）、 B/B_{MSY} ：0.48～1.20（中央値 0.67）と推定され、資源状態は乱獲及び過剰漁獲とされた。なお、会議レポートにおいて、評価結果はすべて相対値で示されていた。2015 年時点の TAC（8.5 万トン）を維持した場合、2028 年に資源が乱獲及び過剰漁獲でなくなる確率はおよそ 30% とされた。

利用・用途

刺身、すし、缶詰などに利用されている。

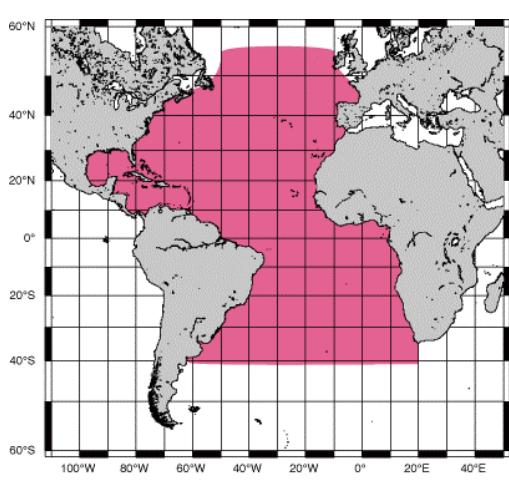
漁業の特徴

本種は主にはえ縄、竿釣り、まき網によって漁獲されてきた。主として成魚を漁獲するはえ縄が漁獲の大部分を占めてきたが、大西洋は他の大洋と異なり、従来からまき網や竿釣りによる漁獲が比較的多い。まき網が FADs 操業を開始した 1991 年以降、小型魚漁獲が増加した。

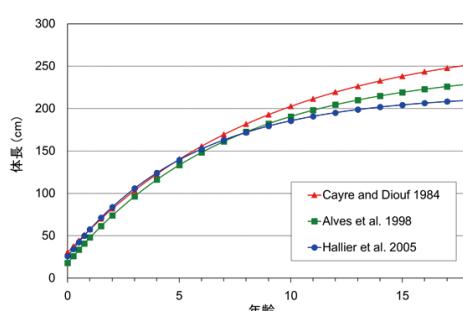


主要なまぐろ漁業による大西洋におけるメバチの漁獲分布（2010～2015 年）

青：はえ縄、赤：竿釣り、黄：まき網、白：その他。凡例の丸は上から 30,000 トン、60,000 トン。

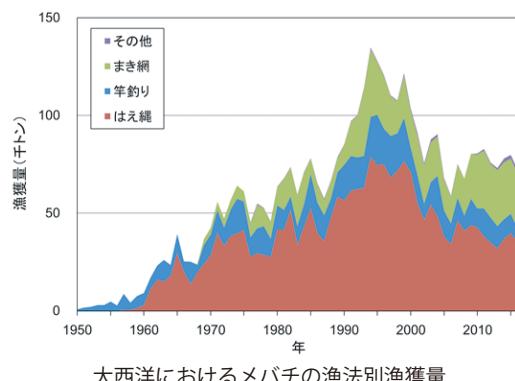


大西洋におけるメバチの分布

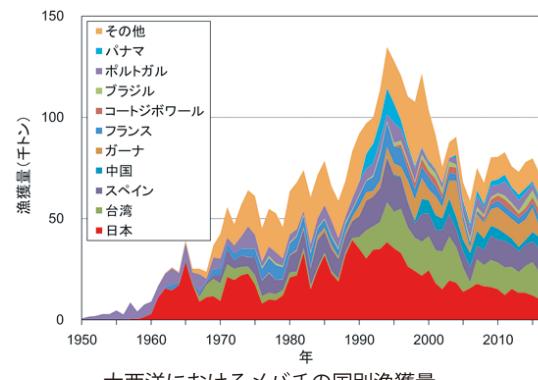


標識放流（Cayré and Diouf 1984）、脊椎骨（Alves et al. 1998）及び耳石（Hallier et al. 2005）から推定されたメバチの成長式

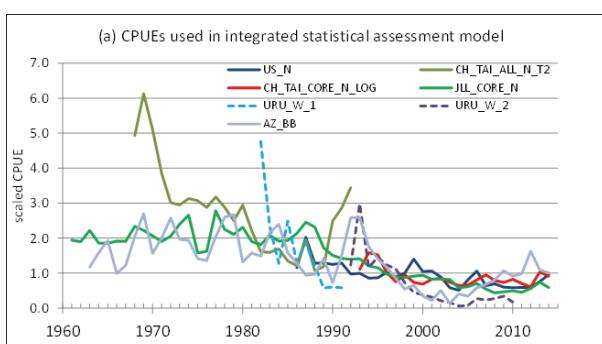
管理方策
2015 年に実施した ICCAT 年次会合において資源管理措置を決定した。漁獲能力制限として、主要漁業国のはえ縄及びまき網における全長 20 m 以上の漁船における年間操業隻数が制定されている。毎年の TAC は 6.5 万トンに設定し、各国に漁獲枠が割り振られている。メバチ・キハダの幼魚が多く生育するギニア湾における FADs を含めた付き物操業の禁漁期、禁漁区域は、2015 年の年次会合で変更され、若干拡大（南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域において、1 月 1 日～2 月 28 日。2017 年 1 月から適用）され、同禁漁期／区で操業するまき網や竿釣り船には、引き続きオブザーバーの乗船が義務付けられる。また、FAD 数を 1 隻当たり一度に 500 基までとする。2002 年 4 月から、統計証明制度（輸入には漁業国の証明書が必要）が開始されている。



大西洋におけるメバチの漁法別漁獲量

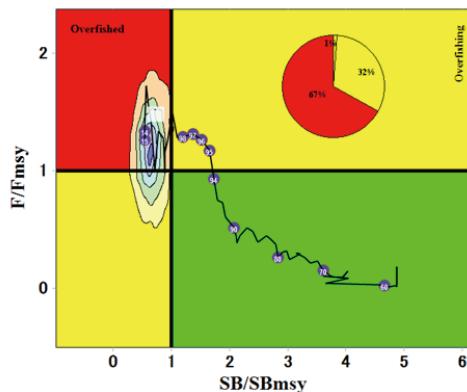


大西洋におけるメバチの国別漁獲量



統合モデルに用いた資源量指標

AZ_BB: アゾレス諸島の竿釣り、CH_TAI_ALL_N_T2、CH_TAI_CORE_N_LOG: 台湾のはえ縄、JLL_CORE_N: 日本のはえ縄、URU_W_1、URU_W_2: ウルグアイのはえ縄、US_N: 米国のはえ縄。

SSB/SSB_{MSY} と F/F_{MSY} の経年的プロット

メバチ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	低 位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	7.2 万～8.3 万トン 最近（2016）年：7.2 万トン 平均：7.7 万トン（2012～2016 年）
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1.0 万～1.5 万トン 最近（2016）年：1.0 万トン 平均：1.3 万トン（2012～2016 年）
管理目標	MSY：6.8 万～8.5 万トン (中央値 7.9 万トン) (2016 年の漁獲量：7.2 万トン)
資源評価の方法	統合モデル（Stock Synthesis）による解析：はえなわおよび竿釣り漁業 CPUE、および漁獲動向等により水準と動向を評価 プロダクションモデル（ASPIIC）による解析：はえなわ漁業 CPUE、および漁獲動向等により水準と動向を評価
資源の状態	$F/F_{MSY} = 0.48 \sim 1.20$ （中央値 0.67） $B/B_{MSY} = 0.62 \sim 1.85$ （中央値 1.28）
管理措置	TAC（6.5 万トン：2016～2018 年）、主要国の漁獲枠、漁船隻数枠の設定 ギニア湾（南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域）における 1 月 1 日～2 月 28 日の FAD 操業禁漁期設定、FAD 数制限 統計証明制度 オブザーバー乗船（まき網、竿釣り）
最新の資源評価年	2015 年
次回の資源評価年	2018 年